



[講演 2]

# タイにおける日本語教育 —中等教育を中心に—

Associate Professor, Japanese Section,  
Faculty of Liberal Arts, Thammasat University  
Neancharoensuk Suneerat 氏  
(スニーラット・ニャンジャローンスック氏)

○スニーラット 皆さん、こんにちは。サワディーカー。初めまして、スニーラットと申します。タイのタマサート大学から参りました。今日はタイの教師会の代表として、ここでタイにおける日本語教育についてお話しさせていただきたいと思います。【スライド⑧-1】

まずは、タイの教育制度についてご説明いたします。タイは日本と同じく6・3・3制度ですので、つまり小学校6年、中学校3年、そして高校3年です。学期は2つに分かれまして、前期は5月に始まりまして、10月に終わります。後期のほうは11月に始まりまして、3月に終わります。ご存じのように、4月はタイの最も暑い季節なので、だから夏休みとします。義務教育は中学校3年までです。これは2002年からスタートしました。【スライド⑧-2】

次に、タイの高校ですけれども、高校は学究コースと職業コースに分かれます。学校としては、学究高校と職業高校及びその両方のコースのある総合高校として存在します。学究コースを選んだ生徒は大学進学を希望する傾向にあります。【スライド⑧-3】

外国語教育のほうですけれども、タイでは共通語はタイ語で、文字もタイ文字なので、外国語を勉強するときに、まず文字の問題に気づかります。第一外国語は英語です。これは小学校1年生からスタートします。1年生からスタートしても、今でも話せない状態となっております。第二外国語としては、これは高校からスタートしますが、開講されている外国語は学校によって違います。第二外国語は、例えばドイツ語、フランス語、日本語、中国語、アラビア語、パーリ語、スペイン語。私は高校生のときにフランス語を勉強しました。学校ではフランス

語しか開講されていませんでしたので、それを勉強しないといけませんでした。

これはタイ語ばかりですけれども、タイの教育省令、教育省が出された英語教育についての情報です。これまでは、結構、文法中心だったのですが、2016年から、文法よりもコミュニケーションを重視するよという方針が出されました。今3年たちましたが、どうなるかはまだわかりません。【スライド④-4】

次に英語の能力ですけれども、基準としては、小学校6年修了のときにA1、中学校3年修了のときにA2、高校3年修了のときにB1としました。このB1をTOIFLとか、TOEICの点数と比べてみますと、このスライドのとおりです。来る前に、ちょっと2つの高校の高校生に聞いてみました。英語の能力はどのくらいか。高校Aの場合は、275点から300点ぐらい。B1のところに入っていますね。これは普通のプログラムで、EP、EPというのはイングリッシュプログラム、最近、いろいろな高校でイングリッシュプログラムも設定されています。イングリッシュプログラムの学生の場合は500点以上取れています。これはTOEICの点数ですね。高校Bの場合ですけれども、普通のプログラムの学生は550点から650点、イングリッシュプログラムの場合は800点以上、これが何を表しているかと言いますと、タイの学校は、どこでも同じではないということです。学校によって質が違います。一応みんな一生懸命、政府が示す基準を守るようにはしています。【スライド④-5】

第二外国語については、こちらは2019年2月のデータですが、受験者数が全部で3万7,000人くらい、7つの第二外国語があります。その中で、日本語の受験者数が第4位となります。これは大学入試の試験の中で、1つ選ばないといけない。だからみんななぜ第二外国語を勉強しないといけない理由となります。第1位は中国語ですね。やはり中国の政府の動き、孔子学院、それは小学校レベルから入って、勢いよく広がって、キリスト教系学校でも中国語が教えられています。それはすごい力があります。日本の場合は、日本語は先にやって、中国語は後から来ましたけど、中国語は、すでに日本語よりも普及しています。だから第1位は中国語となります。

2位はパーリ語です。タイは仏教の国で、お経等を読むときにパーリ語を使用します。つまり普通の学生と、特に経済的に困っている子どもたちは、お寺に送られて、小さいお坊さんになってパーリ語を勉強する場合もあります。また、高校の時に理系を選択して、第二外国語を全然勉強しない学生もいます。そういう

学生たちで、入試が近づいたタイミングで、理系をやめて文系の学部を選びたい、でも第二外国語をこれまで勉強していなかったといったケースは、この7つの中で、一番できるのは恐らくパーリ語なのでそれを選択します。今の日本語学科の学生に聞いてみたら、4人くらいかな、パーリ語を受験した学生がいました。ちゃんと勉強したかを聞いたところ、「ううん、本を買ってきて2カ月間ぐらい一生懸命、自分で勉強して、試験受けてた」と言っていました。試験は選択肢なので何となく当たるかもしれません。【スライド⑧-6】

次にタイの日本語の学習者の数ですけれども、これは2015年のデータで、タイは6位となっています。最近のデータ、こちらは2018年のものですが、やはり3年前よりも、少し増えています。これからも増えていくのではないかと思います。【スライド⑧-7】

なぜこんなにたくさん日本語を勉強しているのかという背景について、文化的な要因から説明したいと思います。まずは、タイも日本も仏教の国ですので、比較的親近感があると考えられます。実はタイは小乗仏教、日本は大乗仏教ですので、そこが生活や習慣の差異となっています。それでも両国は同じアジアの国であるため、タイの人々には、日本の文化を受け入れやすいと推測されます。主食もお米で、料理も結構近く感じられます。次に、社会的な要因ですけれども、タイと日本はアユタヤ時代から交流がありました。沖縄から船に乗ってアユタヤまで日本人が来ており、その時代にはアユタヤに日本人町がありました。もしいらっしゃる機会があったら、日本人町に行ってください。遺跡以外何もありませんが。私も1回行きました。日本人町という看板があります。

最近、それは歴史的ですが、現在、自動車に関する産業を中心とした経済上の交流も盛んであります。最近、バンコクのおちこちで、日本料理の店とか、日本語、日本文化に触れる機会は増えています。例えば、こういうような、日本の商品、日本のお店が、タイのデパートの中にいっぱいあります。だから、日本はほんとに身近なところにあります。これはどうですか。これは日本の製品でしょうか。まあ、お魚があるものはお菓子ですが、タイ人にとってはお菓子です。ブランドの名前はTARO。この真ん中はお弁当です。イカのお菓子、その次は緑茶ですけども、タイ人向けの緑茶なので、お砂糖いっぱい入っていて、甘い緑茶です。ブランド名は、OISHIです。「おいしい」ではなく「OISHI」です。その下のほうにある、扇風機には、ハタリ、次はハナビシという名が読み取れま

す。日本のブランドではありませんよね。それなのに、なぜ、このような日本語っぽい名のブランド名がつけられているのか。なぜでしょう。答えは、もちろん日本には関心があるからです。そして日本の品物に対して、質が高いというイメージがありますので、わざと自分の商品を日本語名をつけています。

○池田 すごい、TARO というお菓子。

○スニーラット ほかに日本に関する大きなイベントがあります。それはジャパンエキスポというイベントです。毎年行われています。こしは1月31日、3日間ですけれども、2月2日まで。このイベントの中で、いろいろなことがあります。活動があります。日本からのタレント、歌手とかもコンサートがいっぱいあって、いろいろな作り物、食べ物、もちろん大学の紹介もあります。こういうエデュケーションゾーンがあって、去年の参加者ですけれども、3日間で約50万人。これはバンコク市内の中心にある大きなデパートの中でやります。だから結構、日本といえば、タイ人はすごい関心を持っています。

次に七夕祭り。これはタイの高校生に聞いたら、七夕、みんなわかります。日本語を勉強している学生も、勉強していない学生も、七夕は何かわかります。なぜかといいますと、七夕祭りは7月ですよ。そのときはちょうどまだ授業期間中なので、大体、日本語を開講している学校はいろいろなイベントをやります。ただ、日本語を勉強している学生を対象にするだけではなくて、学校全体、例えば朝礼のときに、いろいろな踊りとかやったりしていて、これは日本の七夕ですとか、一生懸命説明しています。だから最近、七夕祭りといえば、高校生はみんなわかります。【スライド⑧-8】

では次に、学習者の数で、レベル別を見てみます。最も多いのは高校ですね。12万人ほど入っていて、これは政府、校長先生の意思もあって、1クラスは、私が見学したところは50人、いっぱい入っていて、だから1つの学校100人ぐらいとか、200人ぐらいとかいます。【スライド⑧-9】

あとは、タイの教育省のデータからですが、日本語の授業を行っている高校は287校です。その中で専攻としてやっているところは85校あります。専攻としては週に3時間ぐらい。高校だから1コマは50分。4コマから6コマぐらいですね。

ではここで、また皆さんにお聞きしたいと思います。学生はなぜ日本語を勉強するようになりたいのか。ヒントはフィリピン人の学生とそんなに変わらないと

思います。やっぱり年少者だから、こういう漫画、アニメに魅かれて、日本語を勉強したい、したくなるようになります。【スライド⑧-10】

カリキュラムは、主専攻の場合はやはり初級日本語を終わらないといけない。つまり入試のときに日本語の試験を受けないといけないですね。だから構造シラバスプラス、コミュニカティブ・アプローチになります。教科書は『あきこと友だち』という教科書で、これは国際交流基金バンコクセンターとタイの高校の教員と大学の教員と一緒に作ったものです。全部で6冊あって、これ全部終わってA2レベルです。高校1年生の時は一度に2冊、学年2冊ずつあります。このほかに、『みんなの日本語』とか、『にほんごよろしく』、これはタイでつくったものだそうですが、こういったものが使われています。

『あきこと友だち』はこんな感じです。教科書に出てくるあきこは日本の学生で、タイに来て、1年間留学します。このようなストーリーですので、あきこがタイ人学生の授業のところに入って、いろいろコミュニケーションしていきます。

前は、これしかなかったので、日本語を専攻にしていなくても、あきことという教科書を使っていました。それで、教師も勉強する学生も、両方苦しかった。文法シラバスなので、選択科目の学生は、やりたくないし、文字も覚えられない。そこでそのような現実を国際交流基金バンコクセンターに伝えました。【スライド⑧-11】

それを受けて、国際交流基金バンコク日本文化センターがまた別の教科書シリーズを開発しました。『こはる』というシリーズです。ひらがな学習用の『こはるといっしょにひらがなわあーい』という教科書がありまして、これは連想法を使って、母語であるタイ語を生かして、日本語の平仮名を簡単に覚えられるようにしています。また、場面シラバスによる会話と日本の文化事情を学ぶ教科書が2種類あります。その次に『カタカナスूसー!』、スूसーはタイ語で「ファイト」の意味です。これも連想法でやります。ほかに『エリンが挑戦! にほんごできます。』とか、『まるごと』が使用されています。

『こはる』はこんなデザインですけれども、何か中学生っぽい感じで、あきこは高校生です。内容を少しご紹介します。例えば、この課は、この課の目標は「サッカーが好きですか」というCan Doがあります。50分の授業の後は、友達に好きなことを聞くことができるようになります。そして自分の好きなことを相手に伝えることができます。だからCan Doリストがある、簡単なものです。日

本語の平仮名、片仮名わからなくても、ローマ字が載っているので大丈夫です。まず、聞き取りから入ります。語彙、この課では、スポーツの名前とかがいっぱいあって、自分の好きなものを選んで学習します。最後に、簡単な文型、「〇〇が好きです」が言え、そして友達とは「どんなスポーツが好きですか」という表現を使ってやりとりをします。割と簡単なのですが、みんな満足します。50分で終われるし、宿題もありません。そして、これは週1回くらい、50分間だけの授業です。ですので1課50分間の設計で、最後にCan Doチェック、ここでは好きなことを言えるようになったかどうかを確認して終わります。【スライド⑧-12】

次に、高校卒業のときに、日本語能力はどのくらいかについてご説明します。優良校の場合はN3からN2です。例としては、私の大学に入ってきた1年生は、25人中に、N2は2人、N3は10人、N4は13人です。【スライド⑧-13】

こちらに来る前に高校3年生90人にアンケートをしてみました。将来日本に留学したいのか。留学したいと答えた人は7割ぐらいです。しない人は、2割ぐらいで、この90人の内訳は文系の人は60人、理系の人は30人です。このうち、66人は日本へ留学したいと考えており、その中で、日本語学習経験がある人は49人です。49人の中で、N3は4人、N4は10人、N5は13人、文字が読めて、簡単な挨拶だけで22人です。ここから言えるのは日本に留学する意向は、日本語能力には関係ないということです。【スライド⑧-14】

次に日本へ留学したい理由を見ます。自分の人生に役に立つ経験を積みたいという答えが一番多いです。次が日本語力を上げたい。日本で暮らしてみたい。将来日本で働きたい。外国で勉強したいとなります。【スライド⑧-15】

一方、留学したくない理由は、自分の学力が足りないのではないのかという考え、日本語には向いていない。学費や生活費が高いなどです。あとは無回答です。【スライド⑧-16】

サポートする制度、もしこういう制度があれば留学できるという項目で、一番多く選ばれたのは、やはり授業料免除です。その次が奨学金、生活費、毎月どのくらいサポートしてもらえるかが大事です。次に寮費免除でした。そのほかは、とにかくたくさんサポートしてほしいというものでした。【スライド⑧-17】

まとめとしては、タイの若者は日本留学志向が高いと言えるのではないかと思います。日本留学の際の課題としては、授業料免除とか、生活費提供、医療費免

除などです。【スライド⑧-18】

次に、タイ人が留学している大学、特に学部生の場合を見ていきたいと思います。立命館アジア太平洋大学、APU では、タイ人の学部生は 200 人ぐらい集まっています。その中に、友達の姪っ子も行ってきます。聞いてみると、やはり APU の大学から情報が多いいですね。あと先輩から教えられる情報も有効です。これは APU のサイトで載っているものですが、大学のランキングがあります。こういった情報はやはり両親を説得するために必要な情報です。APU はこんなにランキングが高いとか、奨学金もいっぱいあるなど、いろいろ両親に話せませう。こちらは APU のウェブサイト載っている大学の特色ですが、柔軟な入学制度とか、充実した言語教育などが謳われています。学生が読んで、行きやすい、勉強しやすい環境だと判断するのではないかと思います。【スライド⑧-19】

次に東京国際大学です。東京国際大学は 2014 年から英語により学士、修士の学位を取得できるイングリッシュトラックプログラム、E-Track プログラムを設置しました。専攻は 2 つ、ビジネスエコノミクス専攻と、インターナショナルリレーション専攻です。ここにも最近、タイ人学生が 20 名、30 名ぐらいが来ています。E-Track プログラムはすべての講義、科目が英語で開講され、英語のみで学士の学位を取得でき、同時に実践的な日本語学習も可能となっています。だから入学に際しては、日本語能力は問われません。この大学のホームページは、こういう授業料免除制度をちゃんと載せていて、何%減免できるか、これも決断するときに必要な情報です。

私は来る前に、同じキーワードでいろいろなホームページ、大学のホームページを検索してみました。立教大学のホームページはすごくきれいに整理されています。しかし、見たい情報が出てくるまで、何回も何回もクリックしないと見えないです。ほかの大学は 1 回か 2 回クリックすると、すぐほしい情報が出てきますが、立教の場合、下位のフォルダーの中に入っているようではなかなか出てきません。だからもっと早くあられるようになったらいいなと思います。

私の話は以上で終わらせていただきます。ありがとうございます。【スライド⑧-20】

【スライド⑧-1】

立教大学日本語教育センター  
2020/01/10(金)

## タイにおける日本語教育 —中等教育を中心に—

スニーラット・ニャンジャローンスック  
タマサート大学教養学部日本語科  
suneerat@tu.ac.th

【スライド⑧-2】

## タイの教育制度

- 小学校 1-6年 (7-12才)
- 中学校 1-3年 (13-15才)
- 高等学校 1-3年 (16-18才)

学期は2つに別れる。

前期は5月に始まり、10月に終わる。

後期は11月に始まり、3月に終わる。

\*義務教育は中学校3年まで\*

【スライド⑧-3】

## タイの高校

学究コースと職業コースに別れる。

学校としては学究高校と職業高校、およびその両方のコースのある総合高校として存在する。

学究コースを選んだ生徒は大学進学を希望する傾向にある。

【スライド⑧-4】

## 外国語教育

第一外国語：英語（必修）。初等学校は1997年より開始。英語は小学校1年次から学習を開始する。

第二外国語：原則として後期中等教育（高校）より開始。ドイツ語、フランス語、日本語、中国語、アラビア語、パーリ語、スペイン語。

\*開講されている外国語は学校によって違う。

## 【スライド⑧-5】

## 英語能力

レベル	CEFR Level
小学校6年終了時	A1
中学校3年終了時	A2
高校3年終了時	B1

CEFR Level	TOEIC	TOEFL Paper	TOEFL CBT	TOEFL IBT	IELTS
A1	0-110	0 - 310	0 - 30	0 - 8	0 - 1
A2	110- 250	310 - 343	33 - 60	9 - 18	1 - 1.5
B1	255 - 400	347 - 393	63 - 90	19 - 29	2 - 2.5
		397 - 433	93 - 120	30 - 40	3 - 3.5
B2	405 - 600	437 - 473	123 - 150	41 - 52	4
		477 - 510	153 - 180	53 - 64	4.5 - 5
C1	605 - 780	513 - 547	183 - 210	65 - 78	5.5 - 6
		550 - 587	213 - 240	79 - 95	6.5 - 7
C2	785 - 990	590 - 677	243 - 300	96 - 120	7.5 - 9
	Top Score	Top Score	Top Score	Top Score	Top Score
	990	677	300	120	9

<http://202.29.212.162/samutprakan2/files/english%20guid.pdf> (2014年)

## 【スライド⑧-6】

## 第二外国語の受験者数

- 2019年2月のデータ(受験者数=37,465人)
- 7つの第二外国語の中で、日本語の受験者数が第4位(15.7%)

第二外国語	受験者数	%
中国語	12,216	32.60
パァリ語	6,798	18.10
フランス語	5,939	15.80
日本語	5,910	15.70
韓国語	3,731	9.95
ドイツ語	2,189	5.84
アラビア語	682	1.80

【スライド⑧-7】

## タイにおける日本語教育

### 4. 学習者数 2) 地域別増減及び 上位10か国・地域

2015年度 順位	2018年度 順位	国・地域名	2015年度 学習者数 (人)	2018年度 学習者数 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)
1	1	中国	953,283	1,004,625	+51,342	+5.4
2	2	インドネシア	745,125	706,603	△ 38,522	△ 5.2
3	3	韓国	556,237	531,511	△ 24,726	△ 4.4
4	4	オーストラリア	357,348	405,175	+47,827	+13.4
6	↑5	タイ	173,817	184,962	+11,145	+6.4
8	↑6	ベトナム	64,863	174,461	+109,598	+169.0
5	↓7	台湾	220,045	170,159	△ 49,886	△ 22.7
7	↓8	米国	170,998	166,565	△ 4,433	△ 2.6
9	9	フィリピン	50,038	51,892	+1,854	+3.7
10	10	マレーシア	33,224	39,247	+6,023	+18.1

<https://www.jpff.go.jp/about/press/2019/029.html>

【スライド⑧-8】

## タイにおける日本語教育

### 文化的要因

- ・ アジアの国
- ・ 仏教の国
- ・ 主食: 米

### 社会的要因

- ・ アユタヤ時代からの交流  
(1351年～1767年)
- ・ 日系企業が多い

## 【スライド⑧-9】

レベル	タイの学習者の数			
	2006	2009	2012	2015
1.初等教育	31,697	1,534	1,552	<b>3,601</b>
2.中等教育		42,400	88,325	<b>115,355</b>
3.高等教育	21,634	23,707	19,908	<b>24,789</b>
4.学校教育以外	17,770	11,161	19,831	<b>30,072</b>
合計	71,083	78,802	129,616	<b>173,817</b>

<http://www.jpfi.go.jp/j/about/press/2016/057.html>

## 【スライド⑧-10】

## タイの高校の日本語教育事情

- 日本語教育を行っている高校: 約287校  
(タイの教育省: 2018年のデータ)
- 専攻として: 85校

(J Study Center: 2018年のデータ)

[https://www.studyatoz.com/article.php?id=756&fbclid=IwAR3Qo1YABQAMoj4YHFNeDNGWta\\_4-MI2kxqXIEPKQTsoblVWk7Gp\\_cjgD1A](https://www.studyatoz.com/article.php?id=756&fbclid=IwAR3Qo1YABQAMoj4YHFNeDNGWta_4-MI2kxqXIEPKQTsoblVWk7Gp_cjgD1A)

【スライド⑧-11】

## カリキュラム

- 内容:初級日本語(構造シラバス+コミュニケーションタイプアプローチ)
- 教科書:『あきこと友だち』1-6 (CEFR A2)
  - 高校1年:『あきこと友だち』1-2
  - 高校2年:『あきこと友だち』3-4
  - 高校3年:『あきこと友だち』5-6

他に『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク)  
『日本語よろしく』(泰日経済技術振興協会)

【スライド⑧-12】

## 選択科目の日本語の教科書

国際交流基金バンコク日本文化センターが制作し、  
泰日経済技術振興協会が出版している「こはるシリーズ」

- ひらがな学習用の『こはるといっしょに ひらがなわあ〜い』(2011年)
- 場面会話と日本の文化事情を学ぶ教科書『こはるといっしょに にほんごわあ〜い1』(2012年)
- 続編の『こはるといっしょに にほんごわあ〜い2』(2013年)
- 日本の文化事情を学ぶユニットでは、CDに現在の日本を視覚的に紹介する写真も数多く収められ、専攻科目として学ぶコースでも部分的に活用されている。
- 『カタカナスースー』(2014年)

『エリンが挑戦にほんごできます』 『まるごと』

【スライド⑧-13】

## 高校卒業時の日本語力

- 優良校 N3-N2
- 2019年度タマサート大学教養学部日本語科  
1年生(25人): N2= 2人  
N3=10人  
N4=13人

【スライド⑧-14】

## タイの若者の日本留学志向

- 高校3年生(90人)に回答してもらった  
留学する 66人(73.3%)  
留学しない 24人(26.7%)

【スライド⑧-15】

## 日本留学したい理由

自由記述

- 自分の人生に役に立つ経験を積みたい 22人
- 日本語力を上げたい 17人
- 日本で暮らしてみたい 16人
- 将来日本で働きたい 8人
- 外国で勉強したい 6人

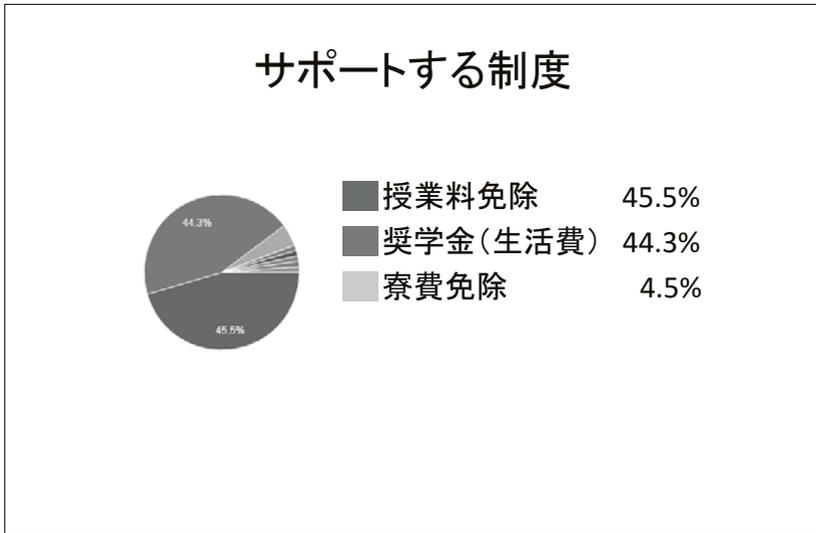
【スライド⑧-16】

## 日本留学したくない理由

自由記述

- 自分の学力が足りない 8人
- 日本語に向いていない 6人
- 学費や生活費が高い 5人
- 無回答 5人

【スライド⑧-17】



【スライド⑧-18】

- ### まとめ
- 日本留学志向が高い
  - 日本留学の際の課題
    - ① 授業料免除
    - ② 生活費提供(奨学金)
    - ③ 寮費免除

【スライド⑧-19】

## 立命館アジア太平洋大学 (APU)

### 柔軟な入学制度

APUでは日本国内、世界各国・地域から多様なバックグラウンドを持った意欲あふれる学生の受け入れを進めるため、年2回(春・秋)入学できる制度を設けています。また、日本語か英語のいずれかで入学選考を受けることができ、入学後も学内の配布資料や掲示は、日英二言語で表記され、ガイダンスも日本語と英語で行われます。

### 日英二言語教育

APUのキャンパスは日本語と英語が公用語で、学部講義のおよそ90%は日英二言語で開講しており、これがAPUの特徴の一つとなっています。入学後は集中的な言語学習で英語や日本語を学ぶだけでなく、専門科目を英語や日本語で学ぶことで、国際ビジネスや学術の世界で通用する高度な言語運用能力と専門知識の習得に繋がっています。

【スライド⑧-20】

## 東京国際大学 (TIU)

E-Track Program(E-Track)においては、全ての講義科目は英語で開講され、英語のみで学士の学位を取得でき、同時に実践的な日本語学習も可能となっています。

E-Trackには、「ビジネスエコノミクス」と「国際関係」、そして「デジタルビジネス&イノベーション」の三つのMajorがあります。

入学に際しては、日本語能力は問われません。

<https://www.tiu.ac.jp/etrack/life/voice.html>